

# 新 知 故 温

静岡県立中央図書館所蔵の貴重書紹介(41) 平成14年2月15日

明治初期の教科書(その1)

## 榊原芳野編『小学読本』(K179/69)

明治初期は文明開化の時代であり、欧米の文化風俗が尊ばれ輸入紹介されましたが、教科書も欧米文明国の教科書の翻訳、抄訳編集したものや、欧米文化を内容とする翻訳調のものが多く、「翻訳教科書時代」と呼ばれています。明治4年7月廃藩置県と同時に文部省が設置され、全国に初めて統一した学校制度が設けられると、翌年8月学制が公布されました。文部省は教科書の編集に着手し、明治5(1872)年5月設置の師範学校での実際教授の経験に基づいて編集を進め、明治6年頃から教科書を出版しました。

当時広く読まれた国語の教科書に、明治6年文部省刊行の2種類の『小学読本』があります。師範学校で編集された翻訳型の『小学読本』(4巻 田中義廉編)と、文部省で編集された『小学読本』(首巻と5巻 榊原芳野等編)で、田中本、榊原本と呼ばれています。当館所蔵は榊原芳野等が編集した『小学読本』(明治7年刊・首巻375.9/123、1~5巻K179/69)です。

当館所蔵はありませんが、田中義廉編の『小学読本』は米国のウィルソン・リーダー(Willson's reader)を原本としています。「此女兒は人形を持てり。汝は人形を見しや。(The girl has a doll. Do you see it?)」(巻2第1課)という具合に、文章は不自然な翻訳文体で内容や挿し絵等も異国的なものでした。巻3までは読物教材が編集され、4巻では天体、空気、水など理科的教材が集められており、この書は明治10年頃まで文明開化の世相を反映して広く普及しました。

当館所蔵の榊原芳野らが編集した『小学読本』は初版が明治6年で、首巻および5巻より成っていますが、翌7年の改正で首巻が巻1に含められ、5冊本となっています。巻1から巻3は榊原芳野編、巻4・巻5は那珂通高、稻垣千穎撰となっています。

榊原芳野(天保3(1832)~明治14(1881)年)は、江戸日本橋の町家出身の国学者で、父正之助は絵画俳諧を嗜み、母みすは和歌を善くした人物です。維新後昌平学校に出仕し、大学中助教を経て明治4(1871)年文部権大助教となりました。文部省在任中に『小学読本』のほか『語彙』『日本教育史略』等の編集にあたり、著書に『太古史略』(当館貴重書172/21)『文芸類纂』(同002/132)などがあります。晩年健康を害し、発狂して明治14年12月2日50歳で没しました。博学多識、考証に長じ、蔵書7000余巻に及び、死後書籍館に寄贈されました。

また巻4・5の編者・那珂通高(1854~1879)は盛岡の藩医の家の生まれで、江戸に出て儒学を学んだ後、安政6(1859)年藩に戻って儒官となり、明治維新後は大蔵省・文部省に出仕しました。博学で、儒学のほか国史・仏典などに通じ和歌を善くしました。

榊原本初版の首巻は「伊呂波四十七音」「國音五十字」について、漢字単語を類別して掲げてあります。この巻は漢字を列記しているだけで、文部省刊行の『単語篇』(当館貴重書375.9/228)の第1編に相当し、その内容も類似しています。巻1は初めにいろはの順に「家」「紹」「畠」と各文字を頭字とする事物を並べ、上欄に絵と頭字のかなを掲げ、下欄に簡単な説明を記しています。次に五十音順に「綾」「稻」「兔」となっています。巻2・巻3は既習の単語またはそれに類似する単語を解説しており、巻2の第1~12までは天文・地理に関するもの、第13~17は身体・人倫に関するものについての教材をまとめて解説しています。また上欄外には「惑星の大なるは何の星ぞ」のように問題を掲げ、各課の教材の主眼とする所を示しています。

日常生活を扱いそれに関する知識を与える教材の多い巻3までに比べ、巻4・巻5は編者も異なり、内容も和漢洋の史話・逸話などを基にした教訓的物語を多く収録しています。

榊原本は、在来の国語教材観によって編集され古典的性格が強いが、それでも復古的傾向の強くなった明治10年代に編集された読本に比べると、外国の教訓的物語も加えられており、文明開化期の教科書としての性格を有しています。当時の小学校においては、この榊原本と田中本と組み合わせて使用することも多く、特に巻4・5の物語教材は、田中本に不足している和漢の読本教材として使用されました。

本書は多くの府県で採用され、翻刻本が各府県で刊行され、当館所蔵も「静岡縣重刻」となっています。

### 【参考文献】

『日本教科書大系 近代編』(375.9/118)